久米高畑遺跡 74 次調査　遺跡説明資料

平成 24 年 12 月 4 日
公益財団法人　松山市文化・スポーツ振興財団
埋蔵文化財センター

久米高畑遺跡 74 次調査は、住宅建設に伴い実施した埋蔵文化財の発掘調査です。調査は平成 24 年 11 月 5 日～同年 12 月 4 日の 1 ヶ月間実施しましたが、短期間での調査ということや諸般の都合上、調査地地権者の方を中心に遺跡の説明会を行いました。

1．はじめに

調査地は久米官衙群の中でも主要な遺構である、回廊状遺構の西方に位置しています。この久米官衙群は、小野川の支流である堀越川沿いに、遺跡群で最も古いとされるⅠ期の施設である政庁のほか、方格地割に伴うⅡ期の正倉院や政庁南東官衙などの諸施設が東西に建ち並び、そしてⅡ期を代表する回廊状遺構と呼ばれる施設は、これら北部の諸施設から南へ二町張り出した微高地の先端部に造営されています。この回廊状遺構の北西に遺跡群Ⅱ期の方一町の敷地の存在は明らかにされてはいませんが、これらの区域にも 8 世紀以降の区画溝が複数箇所存在する事ことから、何らかの官衙施設が存在したものと考えられています。

近年に報告された今回の調査地から東と北に位置する 5 つの調査地（久米高畑 67 ～ 69 次、71 次、73 次）は、ともに回廊状遺構北西角から西へ約 100 m以内、正倉院の南東角から南へ約 120 m前後の来住台地南西域に位置しています。この場所は、前述の回廊状遺構の北西に想定される方一町の敷地の南西角のすぐ南にあたることなどから、新旧 2 時期の地割等に関する知見を得ることができるのではないかと期待されました。これらの調査の結果、『現時点では回廊状遺構の南西付近において官衙関連遺構は希薄で、地割に関する情報も乏しいこともあって、久米高畑遺跡 67 次、68 次調査地付近が実質的に遺跡群中心部の南西端にあたるもの』と評価されています。

今回の 74 次調査は、調査地がこの久米官衙群南西域に所在することから、これまでの周辺調査に次いで南西域における遺跡群の様態を解明することを目的に実施されました。

2．調査の概要

調査では、主に弥生時代前期の集落に関連する溝、柱穴、貯蔵穴と見られる土坑などの遺構が発見されました。
検出遺構：溝 3 条、土坑 3 基、柱穴 18 基、性格不明遺構 1 基
出土遺物：弥生土器、須恵器、石器などが出土したが、須恵器はごく少量でした。

3．調査でわかったこと

今回の調査では、時期不明の溝 3 条、弥生時代前期と思われる土坑 3 基、建物を想定できない大小の柱穴 18 基、性格不明遺構 1 基が見つかりました。また調査区内では、後世による攪乱部分が全体の約 1 ／ 5 程度を占め、調査区東の中央部が削られていました。見つかった遺構の時期は、遺構内から遺物の出土もなく時期を特定できないものもありますが、概ね弥生時代前期後半と考えられます。出土した遺物は、弥生土器がほとんどで、須恵器は 1 点のみ出土しています。また柱穴以外の遺構は、ほとんどが残りが悪く、地山－床面の高さがわずかに残る状態でした。特に土坑（ＳＫ）は状態が悪く、土坑の外形を推定するのは困難でした。しかし、ＳＫ１では北東隅の堀方部分が見つかった事により、ほぼ土坑の規模が推定できました。これらは、遺構が構築された時に地山層より深く掘り込まれ、この深さが地山層下の礫層までに達した。その後、後世の削平、開発行為によって遺構は大きく失われたとともに地山層も削られ薄く残った結果、遺構内に地山層下の礫が多くみられる、現在の遺構状況となったと考えられます。

周辺の遺跡ではこのような事例は少ないですが、来住台地南西部付近の調査では地山面から礫が一帯に露出する事例は報告されています。以前からも指摘されていますが、来住台地ほぼ全域で大規模な削平行為または開発行為が行われていることは確かであり、出土する遺物が少ないことと表土と地山面との間の堆積層が比較的浅い理由でしょう。

これまでの久米官衙遺跡群南西部周辺の調査では、本調査地北の久米高畑 67・68 次調査、東の久米高畑 69 次調査において官衙関連施設が報告されており、それぞれ官衙関連施設が展開する南限・南西限として評価されています。このような状況の中で今回の調査は、先の久米官衙遺跡群南西部周辺調査の成果を追認する結果となり、関連調査にとってまた一つ確証を積み重ねるものとなった意義ある調査となりました。

久米高畑 74 次調査周辺遺跡分布図

久米高畑遺跡 74 次調査　遺構配置図

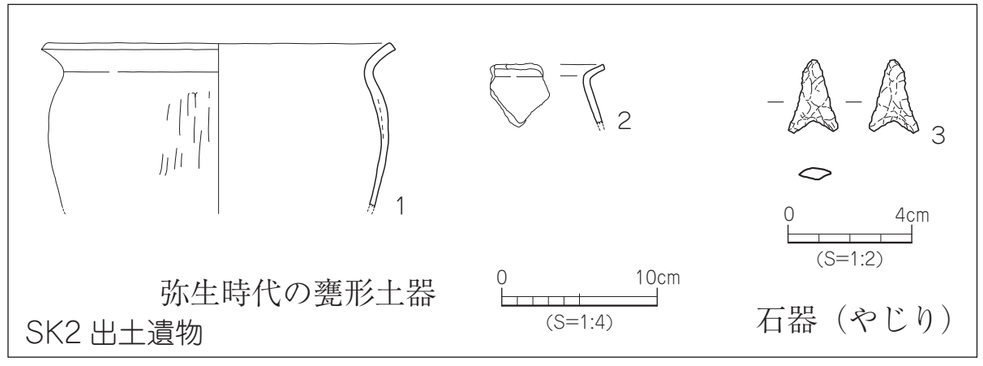
遺構検出状況（北東から）

SK２半截状況（東から）

SK１検出状況（東から）

SP3 根石検出状況（南から）

SD1 検出状況（西から）



SK2 出土遺物

調査では、主に弥生時代前期の集落に関連する溝、柱穴、貯蔵穴と見られる土坑などの遺構が発見されました。

検出遺構：溝３条、土坑３基、柱穴 18 基、性格不明遺構１基

出土遺物：弥生土器、須恵器、石器などが出土しましたが、須恵器はごく少量でした。